

緑茶摂取と子宮内膜がん罹患リスクについての症例対照研究

Case-control study of green tea consumption and the risk of endometrial endometrioid adenocarcinoma.

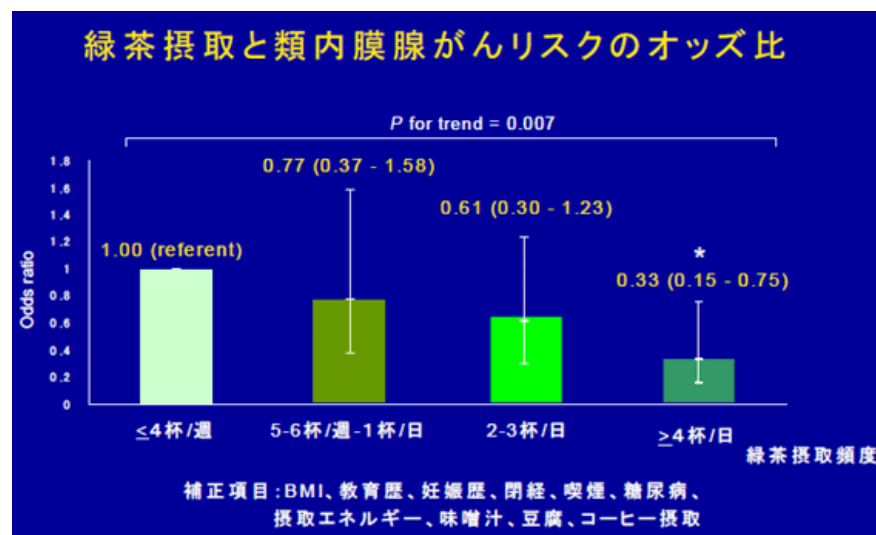
2008 年 Cancer Causes and Control 発表

緑茶を摂取するほど子宮内膜がん罹患リスクが低い

子宮内膜がんの罹患率は一般的に、欧米で高く、日本を含む東南アジアでは低いとされています。しかし、近年日本における子宮内膜がん罹患率は増加傾向を示しています。子宮内膜がんのリスク要因が食事や生活習慣、生活環境に関連することが示唆されており、その因子を研究することは急務です。

これまで、緑茶における抗がん作用につて、細胞レベルや動物での実験では証拠が多く報告されているにも関わらず、ヒトにおけるその関連は明らかではありません。そして、緑茶摂取と子宮内膜がん罹患リスクについてのこれまでの報告は3件のみで、緑茶摂取は子宮内膜がん罹患リスクを低下させるとする1件と、関連はなかったとする2件で、未だ結論は得られていません。

この研究では、緑茶摂取をその頻度により4つの群に分けて、緑茶摂取が最も少ない群を基準とした時の他の群の子宮内膜がん罹患リスクを比較しました。その結果、緑茶を週4杯以下しか摂取しない群に比して、緑茶を1日4杯以上摂取する群ではオッズ比 0.33 と有意な低下を示し、傾向性の P 値も有意となり、緑茶を多く摂取するほど子宮内膜がん罹患のリスクが下がることが示唆されました。



研究データについて

この研究は症例対照研究で、症例は東北大学と宮城県立がんセンターにおいて、子宮摘出術を受け子宮類内膜腺がんと診断された患者 158 人、対照県内の人間ドックに参加し、同意を得られた方から、各症例に年齢と居住地域をマッチさせた一般女性 285 人としました。症例および対照の方には、身長、体重、喫煙歴、妊娠歴、疾患既往歴など、生活習慣に関する約 50 項目におよぶ調査票と、141 品目の食物と飲料に関する摂取頻度調査表に回答してもらいました。

緑茶摂取に関する調査について

緑茶摂取に関する項目は、「飲まない(週1杯未満)」「週1-2杯」「週3-4杯」「週5-6杯」「毎日1杯」「毎日2-3杯」「毎日4-6杯」「毎日7-9杯」「毎日10杯以上」の9つの回答項目から選択してもらいました。緑茶摂取頻度について、本解析対象者数が均等になるよう、「4杯/週以下」群、「5-6杯/週から1杯/日」群、「2-3杯/日」群、「4杯/日以上」群の4群に分類し、最小緑茶摂取群に対する他の群の子宮内膜がん罹患リスク（オッズ比）を算出しました。

他のリスク要因の影響について

この研究では、子宮内膜がんの罹患リスクになると考えられている、妊娠や出産歴、肥満や糖尿病などの生活習慣関連要因や、摂取カロリーや肉・野菜、コーヒー摂取など食事習慣の影響を考慮して統計学的な処理を行いました。

研究の特徴と限界について

本研究の長所としては、①ホルモン依存性である子宮内膜がんの代表かつ大部分を占める組織型である類内膜腺がんに限定したことで、より均質な症例集団で検討したこと、②アンケートから生活習慣や食物摂取を詳細に調査したことでこれらの影響を考慮し処理できたこと、③緑茶摂取頻度を9つのカテゴリーより選択回答したことで、これまでの文献より緑茶摂取の頻度を詳細に検討できたこと、などがあげられます。また、限界としては、①ホルモン補充療法の有無を調査しなかったこと、②症例対照研究であるため、思い出しのバイアスが生じること、③対照は人間ドックに参加した方たちであるため、一般の方よりも健康志向の強い女性であった可能性があります、結果が過大評価となる可能性があります
